日本経済新聞　リゾート会員権記事　19面　マーケット商品欄

2021年10月27日(水)

リゾート会員権15%高

9月、海外旅行の代替で買い旺盛

高価格商品が押し上げ

リゾート会員権への関心が強まっている。販売仲介会社のe会員権（横浜市）がまとめた9月の会員権の平均価格は374万円。8月比15・1%高と大幅に上昇し、ここ20年ほどの過去最高を更新した。高価格帯の好調が全体を押し上げている。新型コロナウイルス禍の長期化で富裕層の海外旅行の代替需要としての買いが旺盛だ。新規購入者も増えている。

ここ20年の最高値を更新するのは2カ月ぶり。9月の取引のうち、値上がりした商品は50件となり、前月比67%増えた。値上がり件数が50件を超えるのは初めてという。このうち300万円以上の高価格帯が全体の52%で、12件が最高値を更新した。

値上がりが多かった商品は、最大手のリゾートトラストが運営する「東京ベイコート倶楽部」（東京・江東）の高層フロアの「ロイヤルスイート」。東急ハーヴェストクラブ勝浦（千葉県勝浦市）なども値上がりした。都心に近い空間のほか、都心から車で数時間の近郊エリアも好調のようだ。

コロナ禍に入って以降、密を避けながら快適に過ごしやすい施設としてリゾート会員権の需要が増え、相場が上昇した。ここに来てワクチン接種の進展や緊急事態宣言の解除で国内旅行のハードルは下がる一方、海外旅行は行きにくい。e会員権の涌井智子代表は「海外旅行などに行けずカネ余り状態が続く富裕層を中心に、多少高い価格でもすぐに買い手がつく状況」と話す。

高額帯のほか、低価格帯でも購入者の裾野が広がっている。e会員権の9月の全体の取引件数は前月比で25%増えた。取引件数のうち、最も多かったのは100万円未満の低価格帯で、全体の46%を占めた。次に多かったのが300万円以上の高価格帯で、前月から1ヾヾ上昇の32%だった。

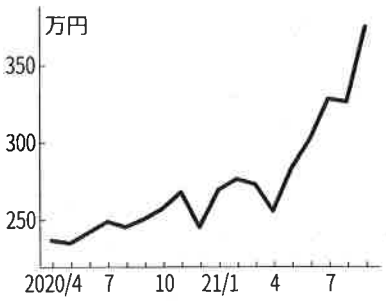
既に出回っている会員権の売買仲介市場に加え、新規で売り出す会員権でも傾向は同様だ。

リゾートトラストによると、2021年4～6月期の総販売数（メディカル系事業も含む）のうち、切り替えや買い増し以外の新規購入が約55%とコロナ禍前の年間45%程度を上回る。担当者は「国内の安心な場所に行きたいというニーズは高まっている」と話す。

10月から緊急事態宣言が解除されたことで、外食や国内旅行など消費の選択肢が広がった。そのなかでもリゾート施設市場は「勢いが落ちていない」（e会員権の涌井代表）という。当面は相場の高止まりが続くとみられる。

（大畑圭次郎）

リゾート会員権相場が一段高



（出所）e会員権

高価格帯の「東京ベイコート倶楽部」が人気